

HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 -vol.106-



発行所 / 白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131

卒業おめでとう!

巣立つ58名の未来に輝かしい光あれ!!



3年間の思い出 3年1組 悦永 遼

この3年間、思い出す
と様々なことがあった。
とても緊張した入学式、
友達と盛り上がった林間
学校、スキー教室。その
中でも特に印象に残った
のは、体育デーと合唱祭
だ。体育デーのバトミン
トンで、2年生で優勝、
3年生の時は、3位を取
ることができた。本当は、
今年で最後の体育デーだ
から、何としてでも優勝
したかった。しかし、本
番は緊張して思うように
動けないことが多かった。
その度に、互いに励まし
合い、ハイタッチをした
ことで、失敗を引きずら
ず、元気が出た。負けて

さいと思ったり、ふざけ
てしまったりすることが
多かった。しかし、練習
を重ねるにつれ、勝ちた
いという思いが強くなっ
ていた。本番では、練習
時よりも、大きな声を出



しまったが、笑顔で試合
を終えることができた。
合唱祭では、クラスの
みんなで朝と放課後に練
習したことが印象に残っ
ている。最初は、面倒く

最高の中学校
3年1組 大井 斗真

白鷗中生として中学校
生活をスタートした3年
前、友達と楽しく過ごせ
るか、しっかりと授業に
ついていけるか等、少し

せた。そして、クラス紹
介では観客を楽しませる
ことができて、満足した。
そしてなにより、最優秀
賞に選ばれて、とても嬉
しかった。今まで練習を
頑張ってきた、3年
1組でいい思い出を作る
ことができてよかったと
心から思えた。

白鷗中で過ごした3年
間は、一生の宝物になっ
た。この思い出を胸に刻
みにチャレンジしたい。

かけがえのない宝物
3年2組 押川 愛依

私にとって、白鷗中で
過ごした3年間は、何に
も代え難い宝物になった。
白鷗中に通わなければ、
出会えなかった友達が

なぜか「定規」で盛り上
がったこと。友達と過ご
した毎日は、楽しくて仕
方がなかった。かけがえ
のない大切な思い出を作
ってくれて、ありがとう。
白鷗中は、本当に本当
に最高の中学校だ!

も学校に行きたくないと
思った日はなかった。学
校に行くのが楽しみでな
らなかつた。それは、友
達がいたからこそである。
くだらない話をしたこと、
消しゴムでキャッチポー
ルをしていたら、先生に
見つかって怒られたこと、
林間学校ではみんなと踊
ったこと、昼休みでは、

不安なことがあった。し
かし、その不安はパッと
すぐに消え去った。同じ
クラスや部活動で増えて
いく友達、面白くて分か



る。経験できなかったこ
とがある。私が特に心に
残ったものをいくつか紹
介しよう。

そして、友達と一緒に
過ごした時間は、大事な
思い出となった。楽しか
った時、苦しかった時、
友達の背中を叩き、叩か
れた。その度に、友達と
成長し合えるような気が
した。

この春、私たちはそれ
ぞれの道を進む。見る世
界が変わっていくはずだ。
それでも、白鷗中で過ご
した思い出は、色褪せる
ことなく、忘れることは
ないだろう。白鷗中は
大事な故郷だ。

「一致団結」と言えば、
体育祭。誰もが一生懸命
に練習をし、誰もが輝け
るのが大好きだ。ソーラ
ー節を踊り切った時は、
何と言えよいいのかわか
らない程の満足感や達成
感を得られることができ
た。

1学期の終業式が終わ
り、夏休みが始まる。だ
が、私の夏は「林間学校」
がなければ始まらない。
バスの中での高揚感、友
達と歩いた山道、楽しい
レクリエーション。私は
この先も忘れることがな
いだろう。

私はこの3年間を思い
返してみると、とても幸
せな気持ちでいっぱい

3年間を通して
3年2組 穂積 昌治

胸に浮かんでくる。入学
したばかりの頃は、新し
い環境への緊張や不安が
大きかったが、部活動や
行事を通して、友達と過
ごすうちに学校生活が大
切な思い出を作ってくれ
るものになった。

中でも印象に残ってい
るのは、林間学校だ。キ
ャンプファイヤーでは、
みんなで輪になって、踊
って盛り上がり、楽しい
時間を過ごした。また、
友達と夜まで語り合った
ことは、かけがえのない
思い出となった。絆を深
め合い、先輩や後輩、多

中学校3年間は振り返
るとたくさんの思い出が
胸に浮かんでくる。入学
したばかりの頃は、新し
い環境への緊張や不安が
大きかったが、部活動や
行事を通して、友達と過
ごすうちに学校生活が大
切な思い出を作ってくれ
るものになった。

なつた。良い友達に恵ま
れ、素晴らしい環境の中
で中学校を送ることがで
きた。様々な活動を通し
自分自身を成長させられ
たと思う。そのような3
年間で特に印象に残って
いるのは、最後の林間学



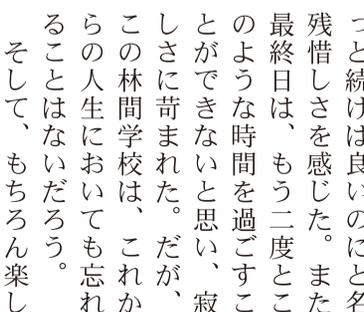
校だ。普段の生活では見
られないような景色を眺
め、友達と語り合ったり
花火で盛り上がったたり
した。このような時間がも
っと続けばいいのにと言
う。残惜しさを感じた。また、
最終日は、もう二度とこ
のような時間を過ごすこ
とができないと思ひ、寂
しさに苛まれた。だが、
この林間学校は、これか
らの人生においても忘れ
ることはないだろう。

くの人とのつながりを広
げることができた最高の
3日間だった。

これまでの中学校生活
で学んだ、友達と協力し
て何かを作り上げること

の素晴らしさ、そしてそ
の達成感は決して忘れる
ことはない。この白鷗中
で積み重ねてきた3年間
の経験を生かし、これか
らの人生を切り開いて、
頑張っていきたい。

そして、もちろん楽し
かったのは林間学校だけ
ではない。体育祭、予餞
会、生徒会活動、それぞ
れに大切な思い出が詰ま
っている。私は白鷗中に
来て良かったと心から思
う。短いようで長かつた
3年間。両親や友達、先
生方には本当に感謝して
いる。



校だ。普段の生活では見
られないような景色を眺
め、友達と語り合ったり
花火で盛り上がったたり
した。このような時間がも
っと続けばいいのにと言
う。残惜しさを感じた。また、
最終日は、もう二度とこ
のような時間を過ごすこ
とができないと思ひ、寂
しさに苛まれた。だが、
この林間学校は、これか
らの人生においても忘れ
ることはないだろう。

仲間との友情を培った 部活動の思い出



バスケットボール部

何のために努力するのか

3年2組 三浦 大歩

バスケットボール部はこの夏、3年生最後の大会に臨んだ。男子の初戦の相手は、市内でトップ



争いをするようなチームだった。それでも、絶対に怯まずに勝つんだという、これまでにないほどの強い気持ちで戦った。だが、結果は初戦敗退だった。今まで、様々な悔しいことはあったが、正直、人生で一番悔しかった。

しかし、親や友達に話してみても成長したことも多くあると思えた。特に「努力する」ことだ。厳しい練習から逃げ出したことは何度もあった。部長としての不甲斐なさを感じることもあった。それでも、諦めずに練習をし、自分を受け入れ、改善しようとした。こうして努力を続けることができたのは、家族や部員の仲間、先生方、そして



何よりも顧問の大平先生がいたからこそだ。大平先生の厳しい指導や声掛けが白鷗中バスケットボール部の原動力だと心から思う。「戦え！」という言葉には何回も背中を押されたのだ。

科学部

一番の思い出

3年2組 大矢 珠璃

私はこの3年間で多くの時間を部活動に費やした。その中で、栃木県理科展覧会発表会で最優秀賞を受賞したり、財団法人様から研究の助成をいただいたりした。それは非常にありがたいことで、貴重な体験となった。これからの私の人生において、大切な思い出になることであろう。

そして、私には大切な思い出がもう一つある。それは、普段の活動だ。



先輩、後輩という垣根を越えて、実験や飼っているウーパールーパーの世

大平先生の言葉を借りて、最後に後輩に言葉を贈ろう。「試合で勝つのも負けるのも、それで嬉しいのも悔しいのも、全て選手であるみんなだ。何のために努力するのかを一人ひとり考え、努力してほしい。」約2年間、本当にありがとう。

文芸部

鮮やかな毎日

3年2組 荒井 美海

私は、文芸部の和やかな雰囲気が好きだ。学年の垣根を越えて部員同士が仲良く、みんなでのんびり、たまに黙々とイラストを描く。笑顔が絶



話の話で盛り上がったこと。実験前は少し緊張しつつも、実験後は、やり切ったという清々しい顔をしている部員たち。実験で使ったピーナッツやトチノミの香ばしくて甘い匂いが漂う理科室。当たり前だったことが、今となってはどれもこれも愛おしく感じる。

微だ。また、個性的な部員が多く、普段の部活動中はもちろん、新入生歓迎会での部活動紹介でも私たちの仲のよさや一人ひとりの魅力が自然と伝わり、いつも楽しい雰囲気広がっていた。

部長を務めることになった時、最初は不安もあった。だが、温かく見守ってくれる部員たちのおかげで、プレッシャーを感じることなく、素の自分で活動することができた。文芸部で過ごした3年間は、私にとってかけがえのない大切な時間になった。後輩たちには、これからものんびり楽しんで、作品制作に励んでほしい。

サッカー同好会

サッカー同好会での思い出

3年1組 皆川 空

私はサッカー同好会での3年間を通して、努力することや仲間をまとめることの大切さを学んだ。1年生の新人戦の時に部員がたりなくなってしまう、足利西中学校と合同チームを組むことになった。その時は、他の中学校の人たちと上手くやっていたいけるかどうか不安だった。しかし、一緒に練習していくうちに、互いのプレーを認め合い、本当の仲間になっていった。

バレーボール同好会

3年2組 橋本 莉杏

この同好会で活動した3年間で、成長することができた。1年生の時は実は活動に参加することができなかつた。徐々に学校生活に慣れた頃、活動に参加するようになっていった。楽しかったがやはり最初は腕が痛くなるとか、上手にプレーすることができなかつた。先輩が回してくれたトスやコートへの反対側から来るボールを取るなどが多変な所に飛ばすことが多かった。非常に恥ずかしかった。楽しかったから「楽しんでプレーできるようにする」という目標を立て、自分なりに練習を頑張った。仲間たちと打ち返しの練習をしたり新しいことにチャレンジ



同好会で過ごした時間は、私にとってかけがえのないものになった。後輩たちも、楽しみながら活動に励んでほしい。今まで、ありがとう！

3年生になり、会長を任された私は、試合の時にチーム全体が気持ちよく



くサッカーをすることができるよう声を掛けた。合同チーム全体の人数が試合に出ることのできるギリギリの人数だったこと等、大変なことも多かったが、合同練習をすること、チームの雰囲気はだんだんと良くなり、目標だった県大会に出場することもできた。地区総体で2位を取り、県大会出場が決まって、仲間たちと喜び合った瞬間は忘れられない。サッカー同好会で過ごした3年間は、私にとって大きな成長に繋がる大切な思い出になった。

日本伝統文化同好会

会長を通して学んだこと

3年1組 小林 祐舞

同好会の活動を通して、私は周りと一緒に活動することの大切さを学んだ。

先輩たちが卒業し、私が会長に任命された。今まで、人の前に立つたり人をまとめたこと、誇りに感じた。そして、会長として一人で、引張っていかうと躍起になった。しかし、自分が想像していたよりも、そう簡単には上手にいかなくつた。学校行事に向けて準備を進めたが、一人で空回りをしてしまった。このままでは、いけないと思い、そこで私は考えを改めることにした。一人で進めるのではなく、仲間たちと協力し合うようにするのだと。私は、声掛けをしたり、意見を求めるよ



一人でできなくても、力を合わせることで、解決することがあると学べた。後輩たちも協力し合いい、これからの活動を楽しんで、そして、「日伝」を盛り上げていってほしい。



3年間の歩み

初々しさあふれる表情だった1年生は、3年間で頼もしく成長しました。

新校舎3階 ラーニングコモンズ
ブラウジングコーナー



1年1組 入学式にて(2023年)



3年1組 体育デーにて(2025年)



3年2組 体育デーにて(2025年)



1年2組 入学式にて(2023年)

～仲間と学んだ日々～

スキー学習での学び

1年1組 野村 一心

僕はこれまでほとんどスキーをしたことがなかったため、出発当日までとても不安だった。1日目は、上手く滑ることができず、転んでしまい、心が折れそうだった。しかし、僕が転んだ時、手を差し伸べてくれる友達や分かるまで優しく教えてくださるインストラクターのおかげで、少しずつ上達することができた。2日目では、前日より滑

れるようになり、だんだんと楽しさを感じるようになってきた。自由滑走では、思いつきりスピードを出し、友達と白銀の世界を滑り抜け、寒ささえも心地よいと感じるほど、熱中した。3日目は、なんとマイナス10度で、猛吹雪だった。手は悴み、耳も凍っていた。そして、雪の質がこれまでとは違い、とても滑りにくくなっていった。しかし、寒さに負けず、一生懸命滑った。僕は、ほぼ初めてのスキーだったが、0から



でも努力を怠らずに、練習を積み重ねていけば、結果に繋がることをこの

スキー教室の思い出

1年2組 柴崎 令衣

スキー教室では、2時間のレッスンを4回受け、思った以上に上達することができた。



初日は、動きもぎこちなく、とても疲れたが、2日目はコツを掴め、滑ることが楽しく感じられるようになった。余裕を感じられるようになり、辺りを見回すと、白銀の世界が続いていて、思わず感動した。最終日は、かなり強い吹雪だったため、何度不安になり、自然の恐ろしさを知った。

スキー学習で学んだのであった。

この3日間でスキーの滑り方等を学び、自分の成長を感じることができた。また、友達との仲が深まったのも嬉しかった。スキー教室で得たことを生かしつつ、学校生活をより良いものにしていきたい。

未来への一歩

2年2組 小保方 咲花

私たちが2年生は、「立志式」ということで足利学校に行った。私は新たに学んだことがある。今回は、「論語」素読体験プログラムというものをやった。最初に2年生全員で『論語』の素読をした。私は、ただ読めば良いと思っていただけで、講師の先生のお手本を聞いて、息を呑んだ。言葉の一つひとつにきちんと気持ちがこもっているのが伝わったからだ。私たちが先生を見習い、感情を込めて大きな声で読めるようになった。



そのあとは、先生による『論語』の解説授業を受けた。この立志式の中で一番印象に残っているなげなら、今まで知らなかった『論語』の意味や内容を深く理解することができたからだ。今回は先生に、三つほど解説をしてもらった。特に心に残ったのは「勉強をして学んだことは何回も復習すれば、自分の真の知識となる。知識が豊かになれば、同じ目的を持った友達と勉強について話した。練習を重ねれば、できるようになるという自信を持って、諦めない心の大切さを知ることができた。この経験をこれからの学校生活や部活動等に生かしていきたい。

立志式で学んだこと

2年2組 川井 慶治郎

校外学習で足利学校に行き、立志式を行ったことは、自分にとって非常に良い経験となった。足利学校は日本最古の学校といわれ、落ち着いた雰囲気であり、長い歴史を感じられる場所である。学問に真摯に向き合ってきた先人たちの姿を想像すると、これからの生き方を真剣に考えなければならぬという気持ちが自然と強くなった。



今回の立志式では、自分たちの将来を考えるだけではなく、『論語』を音読した。張り詰めた空気の中で大きな声を出して読むと、言葉の意味を深く感じられた。特に心に残った言葉は「学びて時に之を習う」だ。学んだことを時に復習するのは、なんと嬉しいことか。はるか昔の短い言葉にも関わらず、現代にも通じることに驚いた。また、学び続けることや前向きな気持ちで学問に励むことの大切さを学んだのだ。それから、学んだことがもう一つある。それは「言葉の口に出す」ということの良さだ。なすべきことがはつきりし、自分自身と約束をしているような感じがしたのである。

立志式の後には、足利学校の見学をした。現代は便利な物に溢れた環境が

とあった。また「未来へ踏み出す大きな一歩」を与えてくれたのである。

